

才百二十六兵站病院部隊略歴

部隊長名

田原中佐

渡辺盛二

年月日	概 要
昭 六 〇 二	動員下令同月十七日東京才ニ陸軍病院に於て編成完結 編成人員病院長以下四二一名
" " 〇 三	濃比転進の為大阪港出發、同日才十九軍司令官の親下に入る
" " 二 二五	モルツカ諸島ハルマヘラ島ワシレ島到着、同日春基地設定隊長の指 揮下に入る
" " 二 五	同日二十七日主力(各連)は「スバウム」地区に上陸 自力を以て病院建築 作業に着手
" " 二 一	一部(各)は「ホソ」(甲地区)に上陸、翌三十日南設中の才百九兵站病院 ハルマヘラ患者收療班より業務及患者を継承同地区分隊開設、尔後 患者收療業務 才十九軍司令官の親下を脱し才二軍司令官の親下に入る 同日五日春基地設定隊長の指揮下を脱し才一野戦根拠地隊司令官の 指揮下に入る

年月日	概要
昭一六三三	患者輸送才五十七小隊指揮下に入り 同月二十三日指揮下を脱す
" " 二四	並昭和一九年一月二十五日輸送船に依り分院收容患者各三〇名「マ」
" " 二五	ニラ南方才十二陸軍病院院に後送
" " 二五	兵站病院(本院)開設 尔后患者收療業務
" 天二〇	丁地区に才一分院開設 "
" " 二三	甲地区分院は才一分院と改称
" " 二三	輸送船に依り才一分院收容患者五七名「マ」ニラ南方才十二陸軍病院に後送
" " 二天	才ニ方面軍直轄救護班を編成
" " 二天	同年三月一日セレブス島「カ」カスカセン(メナト南方約二回折)に
" " 二天	メナト患者療養所開設 尔後患者收療業務
" " 二天	患者輸送才五十七小隊開設中の「ガ」レラ患者療養所の業務及患者を継承同日「ダ」レラ患者療養所開設 尔后患者收療業務
" " 三七	及同月二十九日輸送船及病院船吉野丸に依り各患者一六〇名「マ」ニラ南方才十二陸軍病院に後送
" " 三三	メナト分院編成の為才一、才ニ分院を合併「ワ」シ「シ」分院(旧才一分院は分病室)と改称
" " 三三	同年四月十五日開設中のメナト患者療養所より業務及患者を継承同

昭 五 四	日、メナド分院開設後患者收療業務 紙空機に依りガレラ患者療養所收容患者五名、マニラ南方オ十二陸軍 病院に後送
〃 〃 五 九	オ三十二、オ三十五師団増派入港に際し、セレベス海に於ける遭難戦 患者多発に依り連日徹夜非常收容に努む
〃 〃 〃 三	ばいかる丸及すふは丸に依り本院、分院收容患者四一六名 同日航空機に依りガレラ患者療養所收容患者九名、マニラ南方オ十二 陸軍病院に後送
〃 〃 〃 六 五	病院船うる丸に依り本院、分院收容患者三五〇名 同日航空機に依りガレラ患者療養所收容患者三名、マニラ南方オ十 ニ陸軍病院に後送
〃 〃 〃 七 三	輸送船良知丸及白浜丸に依り本院、分院收容患者六〇五名 同日航空機に依りガレラ患者療養所收容患者三名、マニラ南方オ十二 陸軍病院に後送、尔後島外への後送なし
〃 〃 〃 〃 七	メナド分院は人員資材の全部を輝崎時オ一矢站病院（他部隊差出病 院長以下当該に転居人員不詳）に統合、業務患者を引継ぎ同分院功 働、同日当該はオ一野戦根拠地隊司令官の指揮下を脱しオ三十二

年月日		概 要
昭和五八年二	元 八 七	師団長の指揮下に入る
" " " 〇	" " 九 五	<p>同年九月二十日オニ軍司令官の隷下を脱しオニ方面軍司令官の隷下に入る          患者輸送オ五十七小隊指揮下に入り          同年十月三日指揮下を脱す          ガレラ患者療養所は業務及患者オ三十二師団オ一野戦病院オニ半          印に引継ぎオバネゴに転進          同年九月二十日オバネゴ患者療養所南設ル後患者收療業務          空襲激化に伴い在甲地区ワシレ分院、分病室を閉鎖          同日十五日ワシレ分院は奥地に転営          病院輸送生オ十六班指揮下に入り班長岡崎軍医以下本隊に於て診療          業務に従事</p>
" " 三 七	" " 〇 三	<p>ワシレ分院はオ三十二師団臨時オニ野戦病院長の指揮に入り引継ぎ          患者收療業務          本隊は敵機の初度機銃攻撃を受け建築物及溜珠に若干の被害を受け          同日二十四日の攻囲に依り兵一名戦死          同日二十九日、三十日坂下爆撃に依り建築物軍需品に致命的損害を</p>

昭 三〇 一 二五	昭 三〇 二 三	昭 三〇 三 五	昭 三〇 六 一	昭 三〇 五 五	昭 三〇 八 二	昭 三〇 八 二
<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	<p>被り奥地転管準備に着手 当時入院患者七〇〇名 昭和二十年三月一日転管完了 此の空襲に依り二十九日戦死六名自 敵三入院患者三滞留者二三十日戦死二名(入院患者) 在セルベ入島輝臨時カ一兵站病院はカ百五十兵站病院臨時編成に伴 い勤務中の将校以下一三六名(推定)は同院に転属 渠築勤務カ四十三甲隊ハルマヘラ隊遺隊(カ三小隊の一部)本郷中 尉以下二八名指揮下に入り本院に於て主として渠築作業に従事 患者収療業務を続行するの外臨時生産中隊を編成現地自活作業を強 化する</p> <p>病院船往生カ十六班岡崎軍医大尉以下カ三十二師団司令都に転属 指揮下を脱す</p> <p>「グルワ」に「グルワ」患者療養所を 同月十三日に「ヤホール」に「ヤホール」患者療養所を開設、以後患者 収療業務</p> <p>カニ方面軍司令都役員に伴ひ同日カニ軍司令官の隷下に入る 終戦</p> <p>同月十八日十八時大命に基き戦闘行動を停止兵団の休戦任務解除に</p>	

五三	昭二 八五 九五 〇〇 〇一 〇二 〇三 〇四 〇五 〇六	<p>併ひ 同日二十五日休戦任務を解除せられ引継ぎ患者収療業務 指揮下におりし建業勤務ヲ四十三中隊ハルマヘラ派遣本郷中尉以 下二十八名 被転居</p> <p>悪環境下に在りし本院は旧病院跡に患者収療施設を楳敷尔後逐次強 化し</p> <p>同年十一月一日転官を了す</p> <p>武装解除共の他の終戦処理に着手 楳敷九月末終了</p> <p>オ三十二師団臨時オニ野戦病院長の指揮下に在りレ「ワシ」分隊は其 の指揮下を脱し長以下本院に復帰</p> <p>「ホバネ」患者療養所閉鎖 所長以下本院に復帰 收容患者は「ヤホ 」患者療養所に転送</p> <p>「ドダカ」に「ドダカ」患者療養所開設尔後患者収療業務</p> <p>復員帰還の爲「ドダカ」患者療養所閉鎖本院は</p> <p>同日三十日「ドル」「ヤキ」此両患者療養所は五月一日夫々閉鎖部隊 人員は本院に併合收容患者は閉鎖当日オ三十二師団臨時オニ野戦病 院に転送</p> <p>復員帰還の爲兼船地「ハテタバコ」に集結</p>
----	--	--

昭 三 五 三〇	昭 三 五 三〇
<p>同日二十日東船（リバテター型V77号） ハルマヘラ島ハニタバコ出發 同日二十九日 田辺港到着 翌 三十日 同港上陸 復員完結 復員人員 病院長以下 三一四名 本期間に於ける死者 二五名 將校 二名 下士官兵 二三名 戦死 六名 戦病死 一九名（内二名將校） 本期間に於ける後送患者（南方オ十二陸軍病院後送） 右者のハルマヘラ島出發以後の状況不明</p>	

才二方面才百五十兵站病院部 敵略正

(輝才一六三三五部隊) 推量

部隊長名 陸軍少佐 田島 寛

年月日	概 要
昭 三 一 五	軍令陸甲才十号に依り才一五〇兵站病院編成下令 同日完結 引き続き北都セラレス地区に於て患者收療に任ず
" " 三 一〇	(推量) 将校以下三〇名(推量) 南都セラレスに転進
" " 八 一四	作戦任務を解除さる
自 三 一 五	戦死 兵一(東正太朗)
至 " 八 一四	戦病死 下士官一(河野七朗)
昭 三 一 〇	(両者共期間は推量、或ひは此期間前なるかあしれず) (推量) 北都セラレス・ピートン地区に転進 同地にて患者收療 終
" 三 一〇	戦処理業務並に現地自活
" 三 一〇	復員の為メナド出帆
" 三 一〇	復員完結



オ十三野戦郵便隊部隊略正

オ二軍隊長 細田延一郎

年月日	概要
昭六八一五	オ十三野戦郵便隊臨時編成下令
" " 一 一 五	編成完了
" " 一 二 二	濠北派遣の爲金沢出發
" " 一 二 三	宇品港出發(オ十九軍司令官の親下に入る)
" " 一 二 三	依哇「スラバヤ」港上陸
" " 一 三 五	各野戦郵便の所分進開始
" " 一 三 五	親下オ二六一野戦郵便の所「スラバヤ」出發
" " 一 三 五	オ二六一野戦郵便の所西部ニューギニア「ババ」上陸
" " 一 三 五	親下オ二六四野戦郵便の所「スラバヤ」出發
" " 一 三 五	オ二六三野戦郵便の所「モール島」「グリーンパン」上陸
" " 一 三 五	部隊本部及オ二六〇オ二六一野戦郵便所「スラバヤ」出發
" " 一 三 五	オ二六四野戦郵便所「モール島」「グリーン」上陸

0555

年月日	概要
昭 八 三 五	部隊本部及オニ六〇野戦郵便所アンボン上陸
" " 四 五	オニ六二野戦郵便所ケイ諸島「ドウアル」上陸
" " 八 二	タニンバル諸島「リンヴラ」にオニ六七野戦郵便所を新設す
" " 九 二	アール諸島「ドラ」にオニ六六野戦郵便所を新設す
" " 一〇 三	オニ六一野戦郵便所の西部ニューヤ「バボ」より「カイマ」に移駐同地に於て野戦郵便の所を開設す
自 八 二 一 九	濠北地区に於ける休戦準備並防行
昭 一 九 三 七	スンダ列島「フロト」島「マ」にオニ六八野戦郵便所を新設す
" " 三 〇	スンダ列島「ス」にオニ六五野戦郵便所を新設す
" " 四 二	スンダ列島「ス」にオニ六九野戦郵便所を新設す
" " 八 〇	オニ六〇野戦郵便所「アンボン」島より「モ」島「セラ」島へ転進す
" " 九 三	部隊本部及オニ七〇野戦郵便所南部「セラ」島へ転進す
" " 九 四	「アル」島南又西沖の戦闘
" " 九 二〇	「セラ」島南又西沖の戦闘に於て敵機の投擲に依り船と

概 要

昭 五 〇 ハ	至 五 〇 三 一	自 六 三 二	昭 三 五	至 六 三 二	自 三 二 一	昭 一	至 五 〇 三 一	自 六 三 二	昭 五 〇 ハ
共に塔載隊貨を燬滅す	南部セレベスマカツサムハ転進到着す	臺北地区防行作戦に参加	オニ方面軍の指揮下に入る	輝オニ号作戦に参加	輝オニ号作戦に参加	オナ九軍現地復帰に依りオニ方面軍の隷下に転入す	南部セレベスに駐するオナ九野戦郵便隊のオ三八五野戦郵便所を合せ指揮す	オニ方面軍現地復帰に伴ひオニ軍司令官の隷下に編入	勢オニ号作戦に参加
	チモール島小スンダ列島方面各郵便所四八師に転居	郵務本部及びオニ七〇野戦郵便所南部セレベスマリンブンに集結す	オニ六一野戦郵便所は南部セレベス集結の爲西部ニューギニアガイマナウ出発						

昭 ニ ニ ニ 西	ホニ六一野戦郵便所は南部セレベスマリンパンに集結す 南部セレベス、パレノ巻出帆 田辺海上陸 復員見結召集解除
-----------------------	---

第十九野戦郵便部隊略正

正代部隊長名 陸軍少佐 山田次六  
 部隊事情担当者 准尉 中村一雄

年月日	概	要
昭和六二九	元真召集に依り第十九野戦郵便隊の編成を命ぜられ捜索	
〃 〃 一八	才五十六重隊補充隊に於て編成に着手	
〃 〃 一八	捜索才五十六重隊補充隊に於て編成完結	
〃 〃 一八	濠洲氷置の爲 内司港出發	
〃 〃 一八	莫船、パナマ丸遭難のため基隆港上陸本隊員死傷者なし	
〃 〃 一八	基隆隊出發	
〃 〃 三〇	高尾隊着	
〃 〃 二六	高尾港出發	
〃 〃 九	比律賓マニラ港上陸	
〃 〃 三三	マニラ港出發	

0559

昭 二九 三 一〇	ハ ル マ ヘ ラ 島 ワ シ レ 港 上 陸
〇 八 一 四	終 戦
〃 二 五 〇	復 員 帰 還 の ため ハ ル マ ヘ ラ 島 ワ シ レ 港 出 発
〃 〃 〃 〃	田 辺 港 上 陸
〃 〃 〃 〃	復 員 完 結

建築勤務才三六中隊部隊略正

正代部隊長名

人 陸軍大尉

高橋文男

又 " 佐藤義範

年月日	概	要
昭 天 九 一 天	歩兵中百十五連隊補充隊にて建築勤務才三六中隊編成に着手	
" " 一 〇 五	南方派遣のため芝浦港出發	
" " 一 一 三	台湾基隆上陸	
" 一 七 一 一 四	台湾高雄出發	
" " 一 一 七	比律賓呂宋島ダモルテイス上陸	
至 自 " " 六 一 七	呂宋島鉄道復旧作業に從事	
昭 " " 六 三 〇	呂宋島マニラ港出發	
" " 七 五	昭南上陸	
至 自 " " 七 五	昭南に於て龍軍設営作業に從事	
昭 " " 三 五	昭南港出發	

昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
-----												
田辺上陸 復員完結 召集解除	ハルマヘラ島出發	ハルマヘラ島に於て終戦処理業務並に現地自活	終戦	ハルマヘラ島ワシレ湾内地区警備	建築勤務ヲ三十六中隊を解散し 独立歩兵ヲ七七三大隊に編入	ハルマヘラ島に於て遠北方面補給諸般設営作業に従事	モレットカ猪島ハルマヘラ島ワシレ湾内地区に上陸	ジャワ島ジャカルタ港出發	スラバヤ地区警備	ハルマヘラ島 艦艇進の左め術待ち	ジャワ島ジャカルタ港	スマトラ島メダン上陸



特設陸上勤務オ三十四中隊部隊略正

輝オ一〇四四ニ部隊

年月日	概要
昭六六五	在「スマトラ島邦隊」主として兵站警備中隊等より将校一、下士官約十名、兵約四〇名より転属せる下士官並に現地に募集せる兵補（スマトラ島現地人）約五〇〇名を以て特設陸上勤務オ三十四中隊編成完結
自六六五	「スマトラ島マラワン」に於て兵補の教育訓練に従事す（装備は矢口オランダ兵使用の歩兵銃）
昭六六五	オニ十五軍野戦兵器廠長の指揮下に入り警備教育訓練に従事す
「三〇	「スマトラ島」マラワン港出發
「	オニ十五軍野戦兵器廠長の指揮下を脱しオ十九軍司令官の指揮下に入る
「二五	「ハルマヘラ島」上陸 基地建設作業（主として道路構築、家屋（兵舎並倉庫、揚塔作業）に従事す

0563

昭六三一	オ十九軍司令官の隷下を脱しオニ方面軍司令官の隷下に入る
自六四二	輝オ一号隊に参加
昭六七五	中隊長以下全員（将校一、下士官二、兵三、並に兵補全員残置） 特別戦術オニ連隊に分遣
〃〃八一	軍令陸甲オ一〇三号に依り復員下令
〃〃一五	復員完結 オ一野戦根拠地隊司令部に転属す
〃〃七五	以降に就ては兵補と共に残置せる中尉、堀山一郎が事情精通者である。

特殊陸上勤務ヲ三十三中隊  
猛、岡、監、勢ヲ一〇四四一部隊

年月日	概	要
昭 六 五 五	軍令陸甲(番号不詳)に依り特殊陸上勤務ヲ三十三中隊編成要員トシテ右島師団歩兵中(番号不詳)連隊(西部ヲ二部隊)に將校四(内主任部員士官)准士官一、下士官六(内經理部下士官一)兵一(佐生兵)計十二名入隊す	
昭 六 六	宇呂港出帆昭南島に向ふ	
昭 六 六	昭南港上陸南方軍總司令部に於てスマトラ島ヲ二十五軍(區)司令部に向う可く命ぜらる	
昭 六 六	昭南港出帆スマトラ島に向ふ	
昭 六 六	スマトラ島ハカンバル上陸ヲ路ヲ二十五軍司令部に到り更に命令に依り同島メダンヲ十五獨立準備隊司令部に向ふ	
昭 六 五	メダン到着ヲ十五獨立準備隊司令部に於て原野要員に於て五月三十一日飯波穴詰中の部隊に到着し編成完結の上、ベラワン港に於て船符其間	

昭 六	八 二 三	同地附近の警備(将校五、准士官下士官一五、兵四一、兵補四七五) ベラワン港出帆昭南島に向ふ。
"	" 八 一 六	昭南港上陸ジヨホルバール、コタテンギ矢舎に宿待同地附近の警 備
"	" 九 一	命令番号不詳 猛軍司令官の隷下を脱し南方総軍の隷下に入り南方 軍自動車隊に配属せしめる。
"	" 三	日不詳 命令番号不詳、南方軍の隷下を脱しオナ十五軍 (望)の隷下に 入る
"	" 三	日不詳 兵補を更に三五〇(員数推定)名配属せらる
"	" 三 四	ジャワ島前進のため昭南港出帆
"	" 三 六	ジャワ島ジャカルタ港上陸
"	" 三 九	陸路チマヒに到り給符
"	" 一 九 一 五	(日推定)チマヒに於て兵長川上太平次戦病死す
"	" 二 三	スラバヤ前進乗船準備のためチマヒ出發
"	" 二 五	ニューギニア向陸面丸に隊員搭載完了
"	" 二 八	スラバヤオナ十五軍連絡所長よりニューギニア前進をフロレス島前進 に変更せる旨伝達せらる。

昭	一五	ニ	三	隆西丸塔載隊貨卸し困難のためアンボン島卸し予定を以て野崎軍曹 以下兵三名、兵補率領のためスラバヤ港出帆
"	"	三	四	隆西丸ハリ島沖に於て奥留のため海没兵補六名戦死。生在者はバリ 島シンガラシヤに上陸の上スラバヤ本隊に合す
"	"	三		(日不明) オ十五軍の隷下を脱しオニ軍勢の隷下に入る
"	"	四	五	隆西丸海没隊員の補填完了ニニューギニア、マノクワイ向スラバヤ港 出帆
"	"	五	五	アンボン經由ハルマヘラ島ワシレ港上陸オ一野戦根拠地隊司令部の 指揮下に入り揚塔作業に従事す
"	"	七	三	オニ方面軍兵站監部の指揮下に入り將校ニ、下士官八、兵ニ一を ハルマヘラ臨時戦斗部隊に派遣す。この間兵補十八名戦病死す
"	"	七	六	セレベス島前進のため東丸東祥丸に分乗、ワシレ港出帆
"	"	八	五	アンボン經由ブル島沖航行中爆弾により、東祥丸撃沈兵長一、兵補 四、戦傷、兵補ニ、戦死
"	"	八	一八	東祥丸乗員セレベス島ケンタリール港上陸。民船輸送基地勤務に従事
"	"	八	五	オニ方面軍兵站監部に現地復帰各隊派遣者は夫々派遣先に駆逐
"	"	九	二	広東丸乗員マカツサル港上陸

特設陸上勤務才四十五中隊部隊略歴

年月日	概	要
昭 六 四	編成下令	
" 九 〇	転属のためスマトラ島「テレリペトン」出發	
" 九 六	スマトラ島「メダン」到着	
" 九 六	特設陸上勤務才四十五中隊に転属	
" 二 〇	転属のためスマトラ島「ベラワン」港出發	
" 二 三	昭南港上陸	
" 三 五	昭南港出發	
" 三 九	ジャワ島「ダンジョン」プリオ「港」上陸	
" 三 六	ハルマヘラ「ワシヤ」山 上陸	
" 八 五	下士官以下九名、歩兵オニ百十連隊に転属したるため以後の行動は不明	
一 九 一 三 六	ジャワ島「スラダヤ」港 出發	

特設陸上勤務才四〇中隊部隊略歴

年月日	概 要
昭六五	<p>軍令陸甲才 号により特設陸上勤務才四〇隊要員として西節才四六部隊に於て幹部のみの編成を命ぜらる</p> <p>広島宇品港出發南方艦隊所在地シンガポール向ふ</p> <p>台湾省高雄港寄港</p> <p>シンガポール上陸</p> <p>シンガポール総隊より軍令才 号によりジャワ島マラン州マラン市獨立守備隊に至り特設陸上勤務才四〇中隊編成を命ぜらる</p> <p>編成完結（将軍（軍医含む）下士官兵六九名</p> <p>東部ジャワ附近警備</p> <p>軍令才 号によりジャワ島スラバヤ港出發 ニュギニア島方面へ向ふ</p> <p>アンボン港寄港</p> <p>ハルマヘラ島、ロセバタ上陸</p>
昭六五	<p>昭六五</p> <p>至天</p> <p>自天</p> <p>昭六五</p>

21  
外

昭	至自	昭	至自	昭	至自	至自
ハ	ニ	ハ	〇	ハ	ハ	ハ
六	五	五	ハ	六	ハ	六
六	五	五	七	六	ハ	五
<p>ハルマヘラ島ワシレヤ一、カニ飛行場滑空路設定に従事（才四飛行場          級定隊指揮下          戦病死 兵二名          軍令才 号により特設陸上勤務才四〇中隊解散          将校以下十二名渾身敵へ編入          将校以下五五名 夫々各戦斗部隊へ転属を命ぜらる          ハルマヘラ島ウシレ地区警備          終戦のため作戦任務解除さる          ハルマヘラ島に於て終戦処理業務並に現地自活          復員のためハルマヘラ島ワシレ出發          復員究結</p>						

0570



特設陸上勤務才三十八中隊略正

(朝一〇四六五部隊)  
 部隊長名 陸軍大尉 淺辺 典

年月日	概	要
昭 六 五 六	臨時召集に依り輜重兵才五十五連隊補充隊に依り特設陸上勤務才三十八中隊要員として	陸軍大尉 淺辺 典 陸軍中尉 池上 長 少尉 桑野等塩造 中島竹雄 曹長 大石友平 准尉 沢田勝美 曹長 彼木 勇 軍曹 坂本金増 軍曹 彼木 勇 軍曹 福田英雄 軍曹 藤川助之進 軍曹 岡田勝幸 大平与三郎
" 八 五 八	宇岳港出帆	以上十二名入隊す
" 六 二 一〇	昭南着 南方艦隊司令部に於て「ジャワ」島「バンドン」に集結の命を受け 「ジャワ」島「チタ」に於て編成完了 (編成表紙) 爾後「ジャワ」島内「サマヒ」「スラバヤ」「ジヤカクタ」「バンドン」「ババカン」	屯営出發全九日 宇岳港着

昭 五 八 〇	" 九 一	" 〇 五	" 〇 〇	" 〇 〇	" 一 一	" 一 一	" 一 一	" 一 一	自 五 八 五
年を概マレ警備並に各亦勤務に服す (日推定)「シヤ」島「シヤ」カルタ港 出港「セレベ」島に前進 (「」)「セレベ」島に上陸(「マカツ」サル港) (「」)「セレベ」島「バレ」港に前進 (「」) 富田甲尉以下十一名及兵補百五十名「シ」ンカ「」に前進警備及 作業に服す (日推定)中島中尉以下十一名及兵補約百五十名「バンカ」に前進警備 及作業に就く (日推定) 池田尉以下六名及兵補約七十名「マカツ」サルに前進兵站班長 として兵站業務に就く 薬師寺軍医少尉は、オニ軍医部へ勤務 渡辺大尉、浜田准尉外残余の全員はオニ軍団生材料隊へ勤務 前記勤務のまゝ中隊は解散す 同更傷内地還送、兵一名 副長甲上等兵 小松堅一郎 病氣入院未退及兵一名 " " 成山栄太郎									

建築勤務中五十四中队部隊略正

正代部隊長名

大尉 島田 実

中尉 田中 繁

年月日	概	要
昭三 "三 "三	内地より前進ル後泰国盤谷及同周辺に於ける野戦建築	
自三 "三 "三	輸送間台湾高雄病院に於て兵一名戦病死、兵一名船内に於て戦病死	
昭七 "七 "七	泰国盤谷「ラーノング」に於て設営材料輸送中二名戦病死	
"七 "七 "七	昭南に転進ル後昭南島全域に亘る野戦建築	
"七 "七 "七	「チモール」島に転進ル後「チモール」島全域に亘る野戦建築及陣地構築	
"七 "七 "七	「グーパン」に於て山砲連隊兵會建築中突如未襲の敵機に依る投下爆弾	
昭六 "六 "六	の為下士官兵五名戦死	
自六 "六 "六	「チモール」島各地に於て兵五名戦病死	
至六 "六 "六	「チモール」島各地に於て兵五名戦病死	
昭六 "六 "六	「フロレス」島に転進の為「チモール」島出發	

0573

才七野戦 建築隊本部部隊略正

(徳才ニ六一部隊)

正代部隊長名

自 昭十六年七月編成当初  
至 昭十七年七月

主計中佐 金崎幹男

自 昭十七年八月頃  
至 昭十九年四月三日

(小生在保力)  
主計中佐 真志田主計

年月日	概要	要
昭天七		(日不明) 軍令陸甲才の〇号(不明)に依り才七野戦建築隊本部の編成を命ぜられ閑東軍の〇〇白成手出張所に於て編成に着手
〃 〃 (月日推定)		全出張所に於て編成完結
〃 〃 八 末		(月日推定) 海控尔に移転し 才六軍の指揮下に入り全軍官下の建築業務に従事
〃 〃 七 三		(月日推定) 富控尔基に移駐 才六軍隷下及閑東軍直轄部隊の兵舎

22 外



昭 一 六 三 二 天  五 二 六  頃五	の為いさゝか高尾經由全地に向ふ命令より パラオに寄港 全地帯在 パラオ出港 高雄に向ふ。全月二十六日高雄着港 三月十日頃高雄出港マニラに向ふ マニラに入港船符の為上陸滞在 小生は此間内地部隊勤務の命によ リ四月三日 空輸帰還の為め 四月三日以後の行動は不明なり 当時の部隊長真志田主計大佐 又は連 技少佐笠民御甲技師青田敏 己氏等熟知
---	--

354

0576

オ一野戦根拠地隊司令部略歴

正代部隊長名

- 一代 陸軍少将 武田 寿
- 二代 " 大佐 宮内幸五郎

年月日	概 要
昭 六 九	金天師団動員下令
" " "	東部オ四十七部隊本部に於て当隊司令部編成完結
" " "	集結のため東京野戦重砲兵オ三連隊に於て再編 出發準備完了
" " "	内可出航 高尾―上海―マニラ經由
" " "	ハルマヘラ島ワシレ湾に上陸
" " "	現地復帰の二十年六月迄同島に在りて戦位並に終戦業務に従事
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	
" " "	

編成地  
兵出身地  
編成定員

東京 野戦重砲兵オ三連隊

金天師団

四四八、編成当時の充足人員

三九二

オ二方面軍隷下

昭和二十年六月二十日 現地復帰により独混一三八旅団に転属  
参加せる主要なる作戦

— 渾才一号 作戦

— 才ニ号 —

英の他は「ハルマヘ」島の警備



才二十八野戦勤務隊本部略正

(旧) 熊一五五五一部隊)

正代部隊長名

- (1) 陸軍中佐 松村義雄
- (2) " " 木岡
- (3) " 大尉 杉田勇二郎

年月日	概要
昭 二 五	北部三部隊に於て編成完了
" " 三	大阪港出帆
" " 三	高雄港寄港
" " 三	マニラ港寄港
" " 八	ハルマヘラ島ワシレ上陸
" " 一五	(項) 早川隊(兵補一ヶ中队)配属さる
" " 一七	名祇天望の自動車中队一ヶ中队
" " 一七	印度兵一ヶ中队配属さる 台湾勤務隊(詳ハ)ニヶ中队配属さる
" " 一七	ワシレ地区道路建設

昭 五 三 中 島	六 八 (推定)	ハ	八 七	九 七	三 七 (推定)	六 二	三
<p>右本部復帰、同時オニ方面軍「ヘリタンカン」付拝命          本部主力は「クタン」部は將校ニ名、下士官以下四名          イ、將校一、下士官ニ、兵一、          口、將校一、下士官ニ、兵ニ、          札幌市出身憲河江証吾兵長空襲にて戦死          右「クタン」部は現地自活及、糧秣搬送          各兵補部隊は現地自活及、糧秣搬送          イギリス兵、水軍引渡完了          オランダ兵、米軍引渡完了          終戦業務及現地自活管理          復員のため「ハルマヘラ」島出帆          復員完結</p>							

才五十二野戦道路隊部隊略正

通称番号 勢五

陸軍大佐(陸期工兵科)

井岡憲一

位置 終戦時 ハルマヘラ島ハテタバコ

終戦後

年月日	概要
昭 一 八 三 三 天	<p>才十一軍作命申才三〇一号により才二野戦軍編入          軍令陸甲才一〇三号により、才一野戦根拠地隊司令部は轄属司令陸甲          才八九号により独立混成、才一ニハ旅団独立歩兵、才七七四大隊編成          編成地年月日</p> <p>中支          (常 作業中)</p>

年月日	昭 元 五 八 二 〇 五 五 元
概	ハルマヘラ島
要	<p>兵出身地 旧一四師管 全国 オ七七〇大隊兵の出身は勢オ五五九九が大平他は貨物廠出身のため 全国より出す</p> <p>編成準備並に指揮隷属関係及其の変遷の概要</p> <p>オ一野戦根拠地隊司令部にて、勢オ五五九九部隊のまゝの編成 司令官陸軍少将武田等、オ二軍隷下 独立歩兵七七〇大隊（状態オ一六三三四部隊） 部隊長少佐 藤淵清夫（歩）旅団長 大佐（歩）宮内孝五郎 指 （オ三三〇）師団長</p>

外

年月日	概要
	<p>右は弱成装備共に丙なり</p> <p>参加せる主要なる作戦</p> <p>(警備 戦斗 行軍輸送)</p> <p>輝オニ号作戦、陣オニ号作戦 勢オニ号作戦</p> <p>右は、ハルマヘラ島ハテタバコに於て戦斗並に便行場補修作業に依</p> <p>事</p> <p>死傷損耗</p> <p>旧五五九九部隊は戦死病死、併せて一五名足らずと記述す</p> <p>補給</p> <p>なし</p> <p>迂</p> <p>なし</p> <p>終戦より帰還迄の行動の概要</p> <p>ハテタバコに於て自活のため農作に従事</p>

才五六兵站警備隊部隊略正

通称番号 勢一〇ニニ六  
 佐軍少佐 笠原 暎  
 位 置 ハルスヘラ

年月日	概要
<p>昭和 一八 五 二〇</p>	<p>部隊略正の概要                      編成                      中旬、ハルマヘラ島に進駐し、主として警備、補給、基地の設定等に從事し                      (推定) 以後敵空襲の激烈、及モロタイ(ハルマヘラ北端狭島)に敵上陸後は陣地の構築及自活作業に専念し                      (推定) 浪成旅団獨立歩兵大隊に改編せしめ、敵上陸作戦に万全を期し終戦に至る。</p>

年月日	昭 二七 五 三
概要	<p>再茂候小地区にて自活作業の許に 帰還復活す</p> <p>矢出身地</p> <p>京都府 福井県 三重県 滋賀県 大政村</p> <p>備成表備並に指揮隷属関係及其の發遷の概要</p> <p>大敵一歩兵一隊中隊四、M中隊一、ZA一、小本節</p> <p>一般中隊は小銃Iノ午六、四、三、小、M中隊は四銃、IAは</p> <p>平射砲、曲射砲各一、大小</p> <p>行季は駄駄、車兩二棟</p>

年月日	昭 五
概 要	<p>オ五六兵站司令部の隷下 独立歩兵大隊に改編す</p> <p>参加せる主要作戦 特記すべき事項なし</p> <p>送戦より帰還の行動の概要</p> <p>矢番等他の連合軍への引渡しスバィム地区に集合し、寧ら自活 依業に從事し</p> <p>昭和二十一年五月二十日頃出港に上陸 五月三〇日復員す</p>



年月日	概	要
昭 六 五 一 六	特 賜 編 成 二 十 五 に 基 き 歩 兵 百 三 十 六 連 隊 に 於 て 編 成 に 着 手	編成完結
昭 六 五 一 五 二 〇	(月日推定) 福井県坂井郡三里浜塚舎に駐出し訓練	
昭 六 五 一 九 二 二	三里浜塚舎出発	
昭 六 五 一 九 二 七	内司港出発	
昭 六 五 一 〇 二 七	バララ港に寄港	
昭 六 五 一 〇 二 八	ハルマヘラ島「スバイム」に上陸	
昭 六 五 一 〇 三 一	ハルマヘラ島施設作業及び警備	

オニ方面軍兵站勤務オ五十六中隊略正

(勢一〇三二六部隊 杉原隊)

正代部隊長名

兵站勤務中隊長陸軍大尉

杉原忠信

至自 三〇	昭 〃	至自 〃〇	〃	〃	〃	昭 〃	至自 〃〇	至自 〃〇
五〇	〃	八六	〃	〃	六	五	三〇	七五
自 推定	〃	一四一	〃	〃	天	五	一〇	五
スバウムに在りて終戦処理業務並に現地自活	終戦	勢オ三号作戦向スバウム地区に在りて防犯及び警備	大隊長 陸軍少佐 米良登吉	官崎泉 東諸県郡倉岡村大字原出身	独立歩兵オ七百六十九大隊に編入 （中隊の人員を主力として是れより兵站五十六本部及び警備大隊より所要の人員を以て編成せらるる）	解散せらるる	独立混成オ百二十八隊に編成下令	ワシレ地区基地設定作業及び警備

昭  
三  
六  
四

田  
辺  
巷  
上  
陸  
復  
員  
完  
結

独立混成オ五十七旅団司令部略正

旅団長 陸軍少将 遠藤新一

年月日	概要
<p>昭 五 六 二</p> <p>〃 〃 八 三 五</p> <p>〃 〃 九 八</p>	<p>軍令陸甲オ六ニ号に依り独立混成オ五十七旅団の編成下令 詠にメナトに到着しある基幹人員を以て旅団司令部の編成を完結す 旅団長 陸軍少将 遠藤新一 旅団編成要員はメキシコ丸「ハーブル」に乘船「セレベス」に向ひ、 航行中「ハーブル」丸は機件故障に依り「ボロ」島に滞留「メキシコ」丸のみ 目的地へ向ふ途中八月二十九日二時五十分頃「セレベス」海 北緯二度十 九分、東経百二十二度十九分附近に於て敵潜水艦の魚雷攻撃を受け 八回大名城死す。救助せられたる乗員は、ハ、三、メナトに上陸し 直ちに編成に着手す 旅団長は在「メナト」部隊を指揮し「メナト」地区の警備を命ぜらる 標下部隊の編成を完結</p>

昭 元 九 二	昭 元 九 二	獨立歩兵才三七二大隊長 陸軍少佐 相良有造	" " " " 中村政次	" " " " 岩本 貞	" " " " 高延隆雄	欠 除 部 隊	獨立歩兵才三七四大隊	" " " " 三七六	旅団砲兵隊	" 工作隊	" 通信隊	旅団通信隊の編成見解	旅団通信隊長	陸軍中尉 田 村 一夫	" 旅団通信隊長 (サンギへ守備隊を命じ)を旅団長の指揮下に入
------------------	------------------	-----------------------	--------------	--------------	--------------	---------	------------	-------------	-------	-------	-------	------------	--------	-------------	---------------------------------

以上約二、〇〇〇名

内

昭 一 九 〇 一 五	らしめらる 独立歩兵オ三七四大隊及独立歩兵オ三七六大隊は「ホルネオ」守備軍に 転属せしめらる
〃 〃 二 三	桂崎時工兵隊を編成
〃 〃 〃 五	金田大尉を長とする台湾勤労国主体の約七〇〇名 北部ヨレハス地区海軍指揮官を陸上直接防犯に向し指揮下に入らし めらる。
〃 〃 〇 四 三	オニ方面軍野戦貨物廠、野戦兵器廠、野戦自動車廠の「メナド」地区各 支廠を旅団司令部に転属せしめらる。
〃 〃 五 三	旅団の配備を変更し左の部隊（松号部隊と呼称す）に南部「セレベス」 に転進を命ず 以上 約三〇〇名
	独立歩兵オ三七七大隊
	〃 〃 オ三七七二大隊の一中队
	オニ方面軍特設オ六機団砲隊
	独立守備歩兵オ二十二大隊の二中队

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	昭
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	五
九	"	リ	"	"	"	ハ	七	"	六	三
三	三	五	元	八	前	一	〇	"	三	二

  

独立自動車中隊の一小隊  
 独立自動車中隊の一小隊

以上 約三〇〇名

ダラウジョサンギハ守備隊を北部セラベスに移駐を命ず  
 ナニ方面軍司令官の指揮下に入る  
 ナニ軍司令官より旅団主力付連に西南部セラベスに前進を命ぜらる  
 旅団主力は西南部セラベスに向ひ前進を開始す  
 甲村参謀は司令部人員約四〇名を指揮しシンカン司令部に先遣を命ぜられトモホンを出發  
 ボツダ凶言受諾の大詔を拜す  
 一切の戦行の停止を命ず 之が為西南部セラベスに前進部隊は冬々前進を停止す  
 西南部セラベス前進部隊（松号部隊を除く）の原駐地復帰を命ず  
 零時を以て旅団は其の作戰任務を解かる  
 甲村参謀一行四〇名トモホン帰還す  
 旅団隷指揮下部隊に対し、武装解除及之か返約を命ず

昭 二〇 九 一 四	マナドに於て連合軍と現地交渉を開始す
リ リ リ 一 五	連合軍代表 濠洲軍「マナド」司令官 中佐 カヒエト 前日に引続き現地交渉
リ リ リ 一 〇 二	濠洲軍「マナド」に上陸開始
リ リ リ 一 〇 二	日本軍集結地を「ポート」に命ぜられ、集結行動を開始す
リ リ リ 一 〇 二	日本入「ポート」に集結完了
リ リ リ 一 〇 二	旅团长は集結地に於ける陸海軍及邦入全員の指揮を命ぜらる
リ リ リ 一 〇 二	日本入集結地の直接管理の責任を濠軍より南軍に移管せらる
リ リ リ 一 〇 二	南方軍や四通信隊木原隊を旅团长司令部に転属せしめらる。(一〇一色)
リ リ リ 一 〇 二	甲村参謀濠洲軍司令部に出頭を命ぜられ「モロタ」に召喚せらる
リ リ リ 一 〇 二	旅团长濠洲軍命令に依り「モロタ」に召喚せらる
リ リ リ 一 〇 二	旅团长不在間
リ リ リ 一 〇 二	代理 陸軍大佐 田村多郎



三	三	三	三
四	四	四	四
五	五	五	五
六	六	六	六
七	七	七	七
八	八	八	八
九	九	九	九
十	十	十	十
十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六
十七	十七	十七	十七
十八	十八	十八	十八
十九	十九	十九	十九
二十	二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四	二十四
二十五	二十五	二十五	二十五
二十六	二十六	二十六	二十六
二十七	二十七	二十七	二十七
二十八	二十八	二十八	二十八
二十九	二十九	二十九	二十九
三十	三十	三十	三十
三十一	三十一	三十一	三十一
三十二	三十二	三十二	三十二
三十三	三十三	三十三	三十三
三十四	三十四	三十四	三十四
三十五	三十五	三十五	三十五
三十六	三十六	三十六	三十六
三十七	三十七	三十七	三十七
三十八	三十八	三十八	三十八
三十九	三十九	三十九	三十九
四十	四十	四十	四十
四十一	四十一	四十一	四十一
四十二	四十二	四十二	四十二
四十三	四十三	四十三	四十三
四十四	四十四	四十四	四十四
四十五	四十五	四十五	四十五
四十六	四十六	四十六	四十六
四十七	四十七	四十七	四十七
四十八	四十八	四十八	四十八
四十九	四十九	四十九	四十九
五十	五十	五十	五十
五十一	五十一	五十一	五十一
五十二	五十二	五十二	五十二
五十三	五十三	五十三	五十三
五十四	五十四	五十四	五十四
五十五	五十五	五十五	五十五
五十六	五十六	五十六	五十六
五十七	五十七	五十七	五十七
五十八	五十八	五十八	五十八
五十九	五十九	五十九	五十九
六十	六十	六十	六十
六十一	六十一	六十一	六十一
六十二	六十二	六十二	六十二
六十三	六十三	六十三	六十三
六十四	六十四	六十四	六十四
六十五	六十五	六十五	六十五
六十六	六十六	六十六	六十六
六十七	六十七	六十七	六十七
六十八	六十八	六十八	六十八
六十九	六十九	六十九	六十九
七十	七十	七十	七十
七十一	七十一	七十一	七十一
七十二	七十二	七十二	七十二
七十三	七十三	七十三	七十三
七十四	七十四	七十四	七十四
七十五	七十五	七十五	七十五
七十六	七十六	七十六	七十六
七十七	七十七	七十七	七十七
七十八	七十八	七十八	七十八
七十九	七十九	七十九	七十九
八十	八十	八十	八十
八十一	八十一	八十一	八十一
八十二	八十二	八十二	八十二
八十三	八十三	八十三	八十三
八十四	八十四	八十四	八十四
八十五	八十五	八十五	八十五
八十六	八十六	八十六	八十六
八十七	八十七	八十七	八十七
八十八	八十八	八十八	八十八
八十九	八十九	八十九	八十九
九十	九十	九十	九十
九十一	九十一	九十一	九十一
九十二	九十二	九十二	九十二
九十三	九十三	九十三	九十三
九十四	九十四	九十四	九十四
九十五	九十五	九十五	九十五
九十六	九十六	九十六	九十六
九十七	九十七	九十七	九十七
九十八	九十八	九十八	九十八
九十九	九十九	九十九	九十九
百	百	百	百

未海少佐は司令部人員四名を指揮し「メナト」港に先遣を命ぜられ  
「ピート」集結地出發  
旅団は復員の為「メナト」港に向い前進を開始す  
「メナト」港に復員船入港  
復員船「メナト」港出帆  
復員船 田辺港に入港

独立混成隊五十七旅団通信隊 部隊略歴

部隊長名

陸軍大尉 田村一男

年月日	昭和十九年九月十四日
概要	<p>電信隊才十連隊（部隊名不確定、太原駐屯の電信隊）                  才十一連隊                  才二十四連隊の一部及び                  才二軍司令部通信班（電信才二十四連隊所屬）                  は才二方面軍に転属                  独立混成隊五十七旅団通信隊を編成                  東北部セシベスに於て有線及び無線に依る、旅団の警備通信                  隊                  下士官                  兵</p>

昭 三 五 九	昭 三 五 九	至 自 " " 五 八 九	至 自 " " 八 七 二 五	昭
復員完結	復員の為 メナド出版	〔自推定〕 下士官	東北部セラベス 病 死 ビートン地区に於て終戦処理業務並に現地自活	旅団の主力と共に南部セラベスに移動

独立混成隊五十七旅団工兵隊部隊略正

年月日	概	要
<p>昭 五 七 三〇</p> <p>〃 〃 七 三</p> <p>自 〃 〃 三</p>	<p>本部隊は独立混成隊五十七旅団司令部の監視地たるセレベス島メナトに於て編成のため之が要員は内地より立石丸に乘船赴任途中比島沖に於て爆雷これ比ギンネオに漂着せりとの情報あつたが、遂に終戦に至る迄到着せず編成するに至らなかつた。</p>	<p>附を以て同部隊長に任命され工兵大尉金田保美は昭南島より飛行機でジャバに渡り一挙にメナド旅団司令部に赴く予定の処、当時すでに空海共に航行杜絶のため約一ヶ月スラバヤに滞在 在 奥島を利用し旅団司令部に到着したが 前記の如く要員到着せざるための有名無実の部隊にて終つたものである。</p>

独立守備歩兵第二二大隊部隊略歴

年月日		概要	要
昭 一九 四一 〇		満州国東安に於て編成	
〃 〃 五一 八		釜山港出帆	
〃 〃 七一 八		セレベス島(サンギ島)上陸	但しニヶ中隊(一四中隊)は「セ
〃 〃 〃 二八		レベスに残留警備	
〃 〃 〃 二〇		レベスに残留警備	
〃 〃 〃 六二 五		一四中隊(南)「セレベス」に転進	在サンギへ島本部二三中隊
〃 〃 〃 七一 六		はサンギへ出発	
〃 〃 〃 〃 二九		セレベス島上陸	
〃 〃 〃 〃 二九		終戦 ビートン集結	
〃 〃 〃 〃 二九		帰還のため「メナド」港出帆	
〃 〃 〃 〃 二九		田辺上陸	
〃 〃 〃 〃 二九		残留部隊の状況	
〃 〃 〃 〃 二九		南部セレベスに転進せるニヶ中隊は昭和二十一年十月十五日付独	

立歩兵第三七七大隊に転属す  
未帰還  
「メナド」に抑留者 三、  
モロタイに抑留者 三、  
行方不明（逃亡者） 二、

独立歩兵第三七二大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 一 九 一 六 一 五	軍令陸甲第六三号に據り独立混成第五十七旅団編成下令
" " 七 三	旅団編成要員 門司港出帆「マニラ」に向ふ「バレー」海峡に於て輸送船一海没
" " " (推定) 二六	「マニラ」に於て仮編成
" " " 八一五	「マニラ」出港「セレベス」に向ふ
" " " 二九	「セレベス」海(北緯二度一分東經一ニ二度二九分)に於て「メキシコ」丸雷撃を受け海没 死没人員不詳
" " " 三二	「メナド」上陸
" " " 三三	「トニダ」郡「クッ」に於て編成着手
" " " 八	編成完結(大隊本部一般中隊 鉄砲隊各一)
" " " 九	爾后東北部「セレベス」地区の警備 「トングダ」郡「ウタラン」に移駐

昭 一〇一三	自昭 一九〇九 至昭 一九二九	戦傷死 兵一	「アムラン」郡「ツワスン」に移駐「アムラン」湾一帯の警備 （第二中隊「トモホン」附近第一中隊第二小隊「ツンパン」附近独立小隊「クワンダン」附近の警備）
自 一九〇七 至 一九二四	戦傷死 兵一	戦病死 兵一	第二中隊編成（楓迫及部隊 将校以下一五〇名転入） 独立小隊編成（揚陸隊 将校以下七二名転入） 第三中隊編成



昭 〇 八 一	昭 〇 八 二 五	自昭 〇 八 一 五	自昭 〇 八 一 五	昭 〇 一 〇 三 〇	昭 〇 一 一 一 五	昭 〇 一 一 一 五	昭 〇 一 一 一 五
在留邦人 将校以下一八〇名臨時召集 柱第一号作戦（光号輸送中）	戦死 兵二、 生死不明 兵一、（昭和二〇、九、二八死体発見戦死確認） 戦斗行為停止（大隊主力は「ポロニ」一部は「ロラク」に於て行動 停止）	「バカン」附近に集結	戦病 死 兵四	「ビードン」に集結 同地に於て終戦処理業務並に現地自活 第二中隊長以下一四九名、南 セレベス に於て独立歩兵第三七七 部隊に転属	復員のため「セレベス」島「メナド」出帆	紀伊田辺港上陸	復員完結

独立歩兵第三百七十二大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 元 九 八	編成完結
	所在地
	セレベス島ミナハサ県トンダノ東北部セレベス地区警備
〃 〃 〃 二 五 一 〇	メナド港 乗船
〃 〃 〃 三 〇	田辺港上陸

独立混成第五十七旅団部隊略歴

大隊長 少佐 岩本 貞

年、月、日	概	要
昭 二 九 九 六	編成着手 （「セレベス島」「メナド」州「トンドー」）	
昭 二 九 八	編成完結 （ ” ”	
自 三 九 三 九	東北部「セレベス」地区警備	
自 一 五 七 一	” ”	
自 一 五 八 一	柱第一号作戦に参加（人員異常なし）	
昭 一 八 一 四	終戦	

独立歩兵第三百七十七大隊部隊戦歴

(柱第一五五〇六部隊)

歴代部隊長名

1. 陸軍少佐 高延隆雄 陸少
2. 陸軍少佐 増原康武 陸少

年月日	概 要
昭 一 九 六 二 七	比島渡一六〇〇部隊編成要員として歩兵第三十四連隊補充隊に於て編成着手同日完結
〃	乗船日蘭丸約八五〇名 香椎約八〇〇名 分乗す
〃	門司港出帆 比島マニラに向小
〃	台湾台北基隆港に寄港
〃	バシー海峡に於て日蘭丸遭難
〃	乗船部隊約一、二〇〇名海没す 内、当部隊関係人員將校以下
〃	約四〇〇名海没、負傷約一〇〇名
〃	比島マニラ港上陸
〃	同日柱部隊編成着手 入院患者約五〇名

昭	至自	“	“	“	昭
“	“	“	“	“	“
“	七	九	“	“	途 中 日 時 不 詳
“	五	五	三	三	八 元
	八				

乗船セレベス島メナドに向ふ(メキシコ文?)  
 セブ島及ホロ島に寄港 セブ島に於て約五〇名入院  
 セレベス海(セレベス島に近い距離)に於て遭難、海防船一隻も全  
 時海没  
 乗船部隊  
 約一ニ〇〇名海没  
 当時約 五〇〇名死亡  
 海防船に抑圧さる  
 セレベス島メナドル上陸  
 入院患者約一〇〇名  
 トンダノに於て編成完結  
 隷属より引卒将校以下約半数は三七二大隊へ  
 セレベス島トンダノ湖畔に於て警備  
 第二軍司令官の指揮下入る為編成改正完結  
 転近開始

昭 三〇 二一〇	部隊集結の爲め南部セレベス マリンプレ到着
〃 〃 〃 二〇	独立前 兵第二大隊永池大尉以下約三〇〇名 高射砲隊増山中尉以下約 六〇名 部隊編入
〃 二 六 二	復員の爲 パレパレ港出帆
〃 〃 〃 一五	復員完結